

議員派遣報告書

立川市議会副議長
高口 靖彦

- 1 期 日：令和5年10月12日（木）・13日（金）
- 2 会議名：第85回全国都市問題会議
- 3 派遣先：青森県八戸市公会堂・公会堂文化ホール
- 4 派遣者：
公明党：高口靖彦（副議長）・山本みちよ・門倉正子・大沢純一・
瀬 順弘・福島正美
国民民主党：大石ふみお
都民ファーストの会立川市議会：いしとびかおり
- 5 テーマ：文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

内容報告

2023年10月12日（木）、八戸市八戸公会堂で、全国市長会等の4団体主催『第85回 全国都市問題会議 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展』が開催されました。全国から、市長・市議会議員約1,800人が参加されました。

開会式では、全国市長会会長・相馬市長立谷秀清氏、開催市八戸市長熊谷雄一氏、来賓祝辞として青森県知事宮下宗一郎氏（ビデオメッセージ）より挨拶されました。

始めに、「アートの役割って何だろう？」と題して、東京藝術大学長・アーティストの日比野克彦氏より、基調講演されました。八戸市美術館を通して、「美術館とはなんだろう？」との問いかけを出されました。これまでは、美術館で開催される展覧会等を鑑賞に行くことが、主であったと思います。八戸市美術館には、1階に「ジャイアントルーム」と呼ばれる大空間があり、そこでは「市民が交流する広場」としての機能を有しています。

国際博物館会議(ICOM:international council of museums)、博物館に関する世界で唯一かつ最大の非政府組織(国際博物館会議 HP)が、昨年、博物館の定

義を改正しました。1946年に制定された定義では、「ここにいう博物館とは、公開することを目的とする芸術、科学、技術、歴史および考古学資料のすべての蒐集品と、動物園、植物園を含むものとする。ただし、常時の展覧室を備えていない図書館を除く。」と、されています。その後、6回に渡り改正されています。

そして2022年7回目の改正で「博物館は、有形及び無形の遺産を研究、収集、保存、解釈、展示する、社会のための非営利の常設機関である。博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む。倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動し、教育、楽しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する。」と、されました。

“包括的、多様性、持続可能性を育む、コミュニケーション、コミュニティの参加とともに博物館は経験を提供する“、地域の中でのコミュニティの拠点と位置づけたものです。

大空間・ジャイアントルームがある八戸市美術館は交流拠点になるとされます。アートコミュニティ活動としてでしょうか、ご自身の活動を紹介されました。ご自身が出身県である岐阜県美術館長として、総合プロデューサーを務められる“こよみのよぶね“について話されました。岐阜県長良川に冬至の日に、1~12の数字とその年の干支をかたどった大きな行灯を船に乗せるものです。過ぎゆく1年に想いを馳せるものでしょうか。この行灯作りに、多くの市民が集まり、それぞれ担当して、会話しながら、数か月をかけてみんなで制作していきます。

水戸芸術館で、日比野氏が手がけるワークショップを紹介されました。

「HIBINO CUP」と呼ばれる、2005年から開催されている、アートとスポーツと一緒に楽しめる、ワークショップです。段ボール等でゴールやボールを、みんなでつくり、サッカーをするものです。誰もが参加でき、作る楽しさ、コミュニケーションを大事にされています。また、同芸術館が参加する「明後日朝顔プロジェクト」についても紹介されました。2003年に新潟で始まったもので、朝顔の育成を通して、人と人、人とコミュニティ、そして地域と地域をつなぐ、アートプロジェクトです。現在は、全国26地域に広がっています。

「瀬戸内国際芸術祭」で、日比野氏が手掛ける「瀬戸内海底探査船美術館プロジェクト」を紹介されました。その1つに「Re-ing-A」と呼ばれる像を、レンガで制作するものです。3年に1度開催されるので、この像さんも3年に1度、瀬戸内海に現れるものです。ご自身が館長を務められる熊本市現代美術館の取組みを紹介されました。その1つがマッチフラッグプロジェクトです。2009年に熊本で開催されたサッカーの国際戦（イエメン×日本）の時に始まっ

た、アートプロジェクトです。対戦するふたつの国の国旗の色を使って、双方の国名、対戦する日と場所をひとつの旗にデザインして、両方の国を讃えよう！というもので、市民の皆さんと制作するものです。

様々な社会的な課題にアートが取り組むものとして、同美術館が取り組む”ご用聞き”について、紹介されました。仕事の課題や悩みについて、日比野館長と話してみたいという(主として)熊本市役所各課からの相談を受けられているものです。”モヤモヤした心のための場づくり”とされています。

東京藝術大学が主催された”SDGs × ARTs 展 17の的の素には芸術がある。”について、紹介されました。SDGsには、17の目標・169のターゲットがありますが、この中にはアートの文字がありません。SDGsのカラーホイールは、17色の円で描かれ、真ん中は白になっています。ここは実は、各色が交じり合い、それぞれの色と繋がっているように捉えられています。”17の的の素には芸術がある。”これが答えでしょうか。

東京藝術大学の履修証明プログラム「Diversity on the Arts Project」(通称:DOOR)について、紹介されました。社会人等の方を対象として、「アート×福祉」をテーマに、「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクトです。20~80代、職業もさまざまな方だそうです。プログラム実習演習の1つとして、障がいのある方々の困難な体験環境をアートで解決する「センサリールームプロジェクトを紹介されました。感覚過敏の子どもとその家族が観戦するための部屋を制作し、スタジアム内に設置するものです。

東京藝術大学が中核となり39団体が参加する「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」について、紹介されました。アートによる社会的繋がりにより「誰もが孤立しない共生社会」を目指すもので、「文化的処方」を進めるとしています。”文化リンクワーカー”、“アートコミュニケーター”についても言及されました。「文化的処方」の考え方の元である「社会的処方」を進める海外の事例、マンチェスター市立美術館、リバプール国立美術館の取組みも紹介されました。文化的処方をすることで、結果的に様々な経費が削減されます。

”アートは生きる力、アートには、人の心を動かす力がある。”と、幾度も述べられました。アートは、人を蘇生させるものでしょうか。講演を聞いていて圧倒されました。日比野氏は凄いです。立川でどのように活かせるでしょうか。頑張りたいと思います。

日比野氏の基調講演の後、「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」と題して、熊谷雄一八戸市長より、主報告されました。はじめに、八戸市を紹介されました。面積約305km²、人口約22万人の中核都市。また全国有数の水

産都市、東北有数の工業都市、国際物流拠点都市です。2021年に世界遺産登録された北海道・北東北の縄文遺跡群の1つ「是川石器時代遺跡」を有し、国宝「合掌土偶」をはじめ多くの出土品があります。国の重要無形民俗文化財「八戸のえんぶり」、ユネスコ無形文化財遺産「山・鉾・屋台行事」の1つ「八戸三社大祭の山車行事」などの伝統文化、B級ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」でゴールドグランプリを獲得した「八戸せんべい汁」を紹介されました。

次に”文化によるまちづくり”を話されました。2006年、多様で自主的な市民による文化活動を「多文化」と定義し、市民や有識者による「多文化都市八戸推進会議」を立ち上げられました。文化政策の新たな展開として、地域資源の再評価や地域課題にアートの力を活用して取組むアートプロジェクトの必要性などがビジョンとして示されています。

一方で、中心市街地活性化の地域課題があります。商業機能の郊外移転、ライフスタイルの多様化、物流やネット通販の伸長等の影響で、旧市街地の商業機能が衰退し、来街者が大きく減少しました。

そのような中、地域資源の魅力を創出・発信し、文化芸術、産業、観光、市民活動、子育て支援等の各施策を一体にした施設、新たな交流と創造の拠点”八戸ポータルミュージアム はっち”を2011年に開館されました。

その場に行かなければ得られないもの、出会えない人やコトが集まる場を、観客としてではなく、当事者として自らも参加したり創作したりできることが、”はっち”のキーコンセプトであり、その後、同様のコンセプトを共有しながら、近くに”八戸ブックセンター”、”八戸まちなか広場マチニワ”、”八戸市美術館”を整備されています。

また、八戸市美術館等、青森県内にある5つの美術館が実施する、青森のアートの魅力を国内外に発進するプロジェクト”5館連携プロジェクト AOMORI GOKAN”を紹介されました。まちの工場を、景観・まちづくり・観光・文化・産業などの視点から多角的にとらえ、アートを組み合わせることで、地域の宝として工場の魅力や価値を再発見・発信していく試みとして、”八戸工場大学”を2013年に開学されています。2016年に産業観光まちづくり大賞特別賞受賞、2018年にふるさとイベント大賞「ふるさとキラリ賞」を受賞しています。次に”スポーツによるまちづくり”を話されました。

古くからスケートが盛んであり、本年1月に開催された国民体育大会冬季大会スケート競技は、14回目を数えています。そのような中、全国的に著名な「長根リンク」が老朽化し、2019年に、長根公園内に整備を進めてきた長根屋内スケート場（YSアリーナ八戸）がオープンしました。また、2020年にはバスケットボールコートに変換可能なアイスリンク”フラット八戸”が、民間施

設として八戸駅西口近くに整備されました。

現在市では、競技団体と連携を図りながら、子どもたちのスケート教室への指導者派遣等「氷都八戸パワーアッププロジェクト」を実施しています。また地元のプロスポーツチーム、サッカーJ3リーグに所属する「ヴァンラーレ八戸FC」、アイスホッケーのアジアリーグに所属する「東北フリーブレイズ」、バスケットボールBリーグに所属する「青森ワッツ」、3×3.EXE PREMIER に所属する「八戸ダイム」の4種目があり、紹介されました。それぞれ八戸市を活動拠点とされています。

市では地元関係機関と「八戸スポーツコミッション」を立ち上げられ、その活動を支援されています。各プロスポーツチームにおいては、子どもたちや指導者の育成プログラムの実施、「する」「みる」「ささえる」スポーツの各シーンにおいて、市民による多様な関わり、楽しみや活躍、学びの場を提供されています。地域資源を活かす拠点とネットワークをつくることとして、八戸ブックセンターの活動の紹介を通され、公共の施設が専門人材という人的資源を持ちながら、ハブとなる持続的な拠点として、まさにコミュニケーションの新たな回路をつくり、ネットワーク化することが大事だと話されました。

かつて、多くの方が所属した“地縁”や“社縁”が役割りを低下し、代替する組織・団体は十分に用意されていません。居場所と出番をつくること。多様化するライフスタイルの様々な段階において、仕事や家庭と別のサードプレイスで、社会と関われる、まちづくりに関与することができる、多様な選択肢がある地域社会づくりを目指していくことが必要です。文化・スポーツは、そのための“シーズ”を大いに提供するものです。効率や成長を重視することから、成熟社会への価値観の転換を前提としたまちづくりのあり方の1つとして、互いの顔や活動が見える空間づくりにより、コミュニティ感覚を醸成し、そこに誘発される交流からより良い社会をつくるイノベーションが生まれるきっかけになれば良い、と考えられています。

文化とスポーツは、元来、内に閉じるのではなく、他者と交わり外へ開いていく性質を持つのであり、そのようなまちづくりにぴったりではないでしょうか。八戸市は古くから文化的土壌があったものと思います。それでも、人口減少は進み空家も確実に増えているものと思います。しかしながら、ここまで文化とスポーツを大切にしながら、まちづくりを進めていること、驚嘆します。市街地の地価が18年ぶりに挙がったとのこと、その成果の1つと思います。

13日、昨日に引き続き「第85回全国都市問題会議」が開催されました。
2日目は、下記の方々によるパネルディスカッションが行われました。

コーディネーター

小林 真里 東京大学大学院教授

パネリスト

今川 和佳子 合同会社 Imajimu 代表取締役

松橋 崇史 拓殖大学教授

頼重 秀一 静岡県沼津市長

山崎 善也 京都府綾部市長

今川氏からは、「八戸ポータルミュージアムはっち」初代コーディネーターとして取り組まれてきたこと等について、話されました。まちをフィールドにした様々なアートプロジェクトのひとつ「酔っ払いに夢を～横丁オンリーユーシアター」、デコレーション・トラックの「デコトラ ヨイサー」等が紹介されました。

松橋氏からは、地域活性化とトップスポーツクラブ、スポーツ政策等について、話されました。

頼重氏からは、スポーツを活かしたまちづくりとして、「フェンシングのまち沼津」の紹介をされました。2019（平成31）年、公益社団法人日本フェンシング協会と、全国で初めて包括連携協定を締結されています。

また、アニメ「ラブライブ！サンシャイン！！」を活かしたまちづくり、「沼津×ラブライブ！サンシャイン！！」についても紹介されました。

山崎氏からは、「市民一人1文化・1スポーツ」の取り組み等について話されました。「合唱のまち・綾部」、「水源の里トレイルラン」等の紹介をされました。

各々の話が興味深かったのですが、山崎市長が言われたことが、胸に残っています。「井の中の蛙大海を知らず」には、続きがあることをご存じですか、「されど空の青さを知る」と。

後付けでつくられているものとは思いますが。

大都市のようにあれもこれも出来るわけではないですが、地方の小さな自治体の心意気を感じました。

以上、報告致します。



10月12日 全国都市問題会議の会場である八戸市公会堂前にて